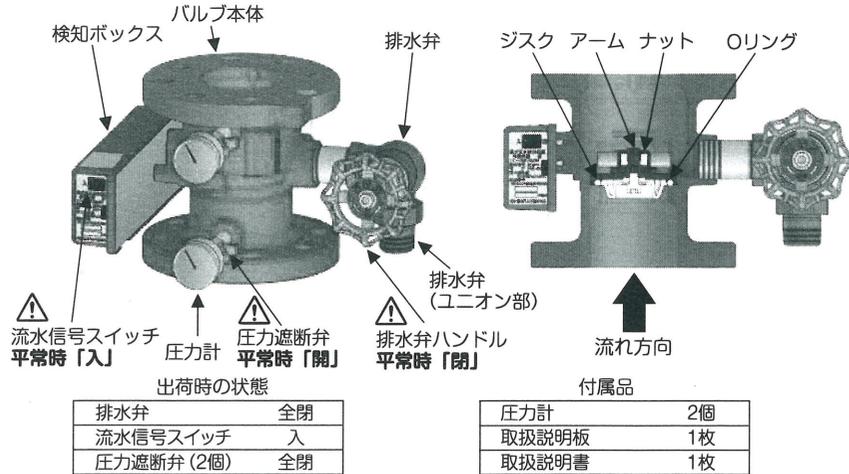


取扱説明書

この度は、弊社の湿式流水検知装置をご採用頂き、誠に有難うございます。本製品を正しく、安全にご使用いただくために、施工前・メンテナンス前に本取扱説明書を必ずお読み下さい。

1. 各部の名称



2.  ご使用上の注意

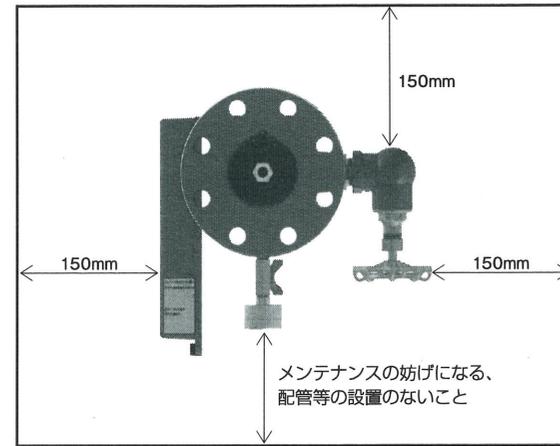
2-1. 施工前の注意

- 設置及び施工に関しては、消防法施行令等の関係法令を遵守して下さい。
- 本製品は日本消防検定協会の検定取得品です。本組合せでの取得をしておりますので、他部品と組替えてのご使用は出来ません。
- 開梱時、製品の状態(変形・破損のないこと)及び付属品の数量を確認して下さい。
- 本製品は水がかからず、粉塵がない屋内で、腐食性ガスの発生・滞留しない場所へ設置して下さい。
- 使用圧力範囲(0.15~1.4MPa)、温度範囲(0~50℃、凍結なきこと)内にてご使用下さい。
- 本製品は直射日光の当たる場所、高温多湿、振動の起きる場所には保管しないで下さい。
- 重量物なので、運搬等注意して作業して下さい。また、検知ボックスや継手等には力を加えないで下さい。

2-2. 施工上の注意

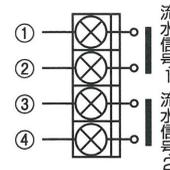
- 重量物なので、運搬等注意して作業して下さい。また、検知ボックスや継手等には力を加えないで下さい。
- 配管する際に、フランジ面に傷がつかないように気をつけて下さい。
- 本製品内に異物が無い事を確認して下さい。
- 圧力計は精密機器の為、落下・衝撃等与えないで下さい。落下した場合は、新品と交換して下さい。
- 本製品を足場に利用しないで下さい。
- 本製品の取付姿勢は縦向き専用になります。横向き配管にはご使用出来ません。また、取付け方向はポデーに表示されている流れ方向(↑)と、流体の流れ方向を合わせて下さい。
- メンテナンススペースを確保して下さい。
- 配管内のフラッシングは必ず行い、異物等を取除いて下さい。
- 水張り時は圧力遮断弁を「閉」にして下さい。水撃等で圧力計が破損する恐れがあります。
- 水張り終了後は、流水信号スイッチが「入」であることを確認して下さい。「切」の場合は流水信号が出力されません。
- 配管の水張りを行う際は、本製品の二次側に空気滞留が生じないように空気抜き弁等を設置し、鳥居配管等は避けて下さい。また、末端試験弁等から空気を十分に抜きながら水張りを行って下さい。(空気滞留がある場合正常に作動しない可能性があります)
- 二次側配管の水張りを行なう際は、本体は逆止弁構造を有しておりますが漏れる可能性がありますので、一次側の制御弁を閉にして行って下さい。

下記の寸法以上のメンテナンススペースを確保して下さい。



2-3. 結線上の注意

- 結線時は電源を遮断してから作業して下さい。
- 流水信号用スイッチの接点は 2a です。①-②又は③-④に結線して下さい。
- 端子ネジ(角座金付ネジ M3×7.2 締付けトルク 0.5N・m以下)
- 流水信号用スイッチは、指定された接点容量以下で使用して下さい。



	接点容量	
	抵抗負荷	
定格負荷	AC125V	DC30V
最大電流	0.1A	

- 配線後、検知ボックス内に余剰コードを押込まないで下さい。
- 流水信号用スイッチの接点を複数の機器で共用しないで下さい。接続機器の故障の原因になる可能性があります。

2-4. 保守・点検時の注意

- 本製品の保守点検・部品交換は、設備・機器に詳しい有資格者又は専門業者の方が行って下さい。
- 製品に使用圧力(0.15MPa~1.4MPa)以上の過大圧力をかけないで下さい。
- メンテナンス時に不要な警報を出力させたくない場合は、流水信号スイッチを「切」にして下さい。メンテナンス終了後は、「入」に必ず戻して下さい。
- 配管の水張りを行なう際は、本製品の二次側に空気滞留が生じないように空気抜き弁等を設置し、鳥居配管等は避けて下さい。また、末端試験弁等から空気を十分に抜きながら水張りを行って下さい。(空気滞留がある場合正常に作動しない可能性があります)
- 二次側配管の水張りを行なう際は、本体は逆止弁構造を有しておりますが漏れる可能性がありますので、一次側の制御弁を閉にして行って下さい。
- 夏場は配管内が異常昇圧する可能性がありますので、最高使用圧力1.4MPaを超えないように処置をお願いいたします。

3. 異常発生時の対処方法

症状	予想される原因	処置方法
①配管内の圧力が下がる	接続部からの漏れ	<ul style="list-style-type: none"> ・漏れ箇所の増し締め、又はシール材等の交換をする。
	バルブ本体のシート部に異物噛み込み	<ul style="list-style-type: none"> ・下記手順を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ①流水信号スイッチを「切」にする。 ②排水弁を全開にする。 ③ある程度流した後、排水弁を全開にする。 ④流水信号スイッチを「入」にする。 ・上記手順で改善されない場合 <ol style="list-style-type: none"> ①制御弁（お客様配管）を全開にする。 ②流水信号スイッチを「切」にする。 ③排水弁、末端試験弁を全開にし、配管内の水を抜く。 ④排水弁のユニオンから排水配管を外す。 ⑤配管から本体を外す。 ⑥本体内部を確認し、弁座に異物が付着していた場合は取除く。 ⑦異物がない場合は、ナットを緩めアームからジスクを取外す。 ⑧Oリングに傷がある場合は、Oリングを交換する。 ⑨弁座に傷がある場合は装置を交換する。 ⑩元通りに組立てる。（ユニオンのガスケットが損傷していた場合は取替える） ⑪水張りし、制御弁（お客様配管）を全開にする。 ⑫流水信号スイッチを「入」にする。
②排水弁からの漏水	排水弁のシート部に異物噛み込み	<ul style="list-style-type: none"> ・下記手順を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ①流水信号スイッチを「切」にする。 ②排水弁を全開にする。 ③ある程度流した後、排水弁を全開にする。 ④流水信号スイッチを「入」にする。 ・上記手順で改善されない場合 <ol style="list-style-type: none"> ①制御弁（お客様配管）を全開にする。 ②流水信号スイッチを「切」にする。 ③排水弁、末端試験弁を全開にし、配管内の水を抜く。 ④排水弁のユニオンから排水配管を外す。 ⑤排水弁を本体より取外し、排水弁一式を交換する。 ⑥元通りに組立てる。（ユニオンのガスケットが損傷していた場合は取替える） ⑦水張りし、制御弁（お客様配管）を全開にする。 ⑧流水信号スイッチを「入」にする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・流水信号スイッチを「入」にする。
③警報が出ない	流水信号スイッチが「切」になっている	<ul style="list-style-type: none"> ・流水信号スイッチを「入」にする。
	配線・結線不良	<ul style="list-style-type: none"> ・配線を確認する。 ・固定ねじを締めなおす。
	二次側配管内の空気滞留（チャタリング現象）	<ul style="list-style-type: none"> ・空気抜き弁を設置する。 ・末端試験弁から配管内の空気を十分抜く。
	末端試験弁を開けている時間が短い	<ul style="list-style-type: none"> ・30sec以上開ける。
④警報が止まらない	配管内部に異物が詰まっている	<ul style="list-style-type: none"> ・排水弁、末端試験弁にてフラッシングを行う。 ・末端試験弁の流量を測定し、50ℓ/min以上を確認する。
	配線・結線不良	<ul style="list-style-type: none"> ・配線及び短絡がないことを確認する。 ・固定ねじを締めなおす。
⑤圧力計の値が異常	バルブ本体のシート部に異物噛み込み	<ul style="list-style-type: none"> ・①の「配管内の圧力が低下する-バルブ本体のシート部に異物噛み込み」の処置を実施する。
	施工時の落下や水撃等	<ul style="list-style-type: none"> ・新品と交換する。

4. 製品仕様

名称	DS 80-50、DS 100-50
呼び圧力	10K
検知定数	K50・K60兼用型
取付姿勢	縦専用
接続形式	JIS 10K フランジ
使用圧力範囲	0.15MPa～1.4MPa
使用温度範囲	0℃～50℃（凍結なきこと）
使用流体	消防用水、合成界面泡水溶液、水成膜泡水溶液
不作動流量	20L/min
接点構成	2a
接点容量	AC125V/0.1A
	DC30V/0.1A

K[®]アイエスアリンクラー

〒648-0003
和歌山県橋本市隅田町山内1691-5
TEL: (0736)37-5835
FAX: (0736)37-5836
URL: <http://www.aiesu-sp.com/>